

和歌山で労働災害撲滅への 決意を新たに！

—第60回全国林材業労働災害防止大会開催—

令和6年10月24日（木） 和歌山城ホール



大会の開会を宣言する
榎本長治和歌山県支部長

林業・木材製造業労働災害防止協会は、令和6年10月24日（木）、和歌山城ホールにおいて、「第60回全国林材業労働災害防止大会」を開催した。全国より林材業関係者が参加し、労働安全意識の高揚を図り、労働災害の撲滅への決意を新たに誓い合う日となった。

大会当日は12時のホール開場と同時に受付が開始され、来場者が次々と参集。地域ブロックごとに入場手続きを行った来場者はロビーに展示された各種の安全衛生用品や防護衣等の説明を受けたり、和歌山県のPRキャラクター「きいちゃん」や令和8年に開催される全国育樹祭のキャラクター「キノピー」との記念写真に収まるなどの賑わいを見せる中、会場正面の大型ビジョンでは和歌山県の魅力を紹介するプロモーションビデオが流された。高野山や熊野古道、百間山溪谷などの秘境の他、北山川観光筏下りといったアクティビティ、寺院で振る舞われる精進料理、伊勢海老、梅干しなど和歌山県を代表するグ



大会式辞を述べる中崎和久会長

ルメが紹介され、大会終了後の観光誘致が行われた。

13時に式典は開幕。アトラクションとして和太鼓ソリストである嶋本 龍^{しまもとりょう}氏による力強い演奏が披露された。13時10分より、林業・木材製造業の労働災害により亡くなられた方に対して30秒の黙とうが捧げられた。

榎本長治和歌山県支部長から「和歌山県は、熊野三山、高野山が存する深山幽谷の地であり、また急傾斜の林地が多く、高い硬度を持つ良質なスギ、ヒノキを産する土地でもあります。この地で、第60回という節目の大会を開催させていただき、心から感謝と歓迎を申し上げますと思います。この大会を機に、林材業関係者の労働安全衛生意識の高揚を図り、労働災害撲





厚生労働大臣の祝辞を読み上げる井内努安全衛生部長



林野庁長官の祝辞を読み上げる谷口正範経営課長



和歌山県知事の祝辞を読み上げる立石修農林水産部長



祝辞を述べる和歌山市の犬塚康司副市長



来賓の皆様



主催者

滅への強い決意を新たに持っていただける大会になることを心から祈念しております」という開会のことばが述べられた。来賓祝辞では、厚生労働大臣（井内努安全衛生部長代読）、林野庁長官（谷口正範経営課長代読）、和歌山県知事（立石修農林水産部長代読）、和歌山市の犬塚康司副市長により、それぞれ祝辞が述べられた。

また、来賓として松浦直行和歌山労働局長、高橋和宏近畿中国森林管理局長、吉永和生中央労働災害防止協会専務理事が出席した。続いて、林材業の労働災害の防止に多大な貢献・功績を上げられた事業場、個人への表彰として、労働災害防止及び安全衛生管理活動

に積極的に取り組み、安全成績及び衛生水準が著しく良好で、ほかの模範となる事業場に贈られる事業場優良賞3事業場のほか、事業場賞進歩賞5事業場、団体賞功労賞3事業場、個人賞功績賞13名が表彰され、各賞の代表者がそれぞれ登壇し、中崎和久会長から表彰状並びに記念品が授与された。

受賞者を代表し、事業場賞進歩賞を受賞したマルカ林業株式会社・海瀬隆太郎氏より「私どもはこのたびの受賞を契機として、労働災害のない職場作りに向けて、経営トップから現場に至るまで全員で安全衛生管理の推進と労働災害防止等を一層進めてまいります。今後ともよろしくご指導ご鞭撻を賜りま



事業場優良賞の那須町森林組合



事業場賞進歩賞代表のマルカ林業株式会社



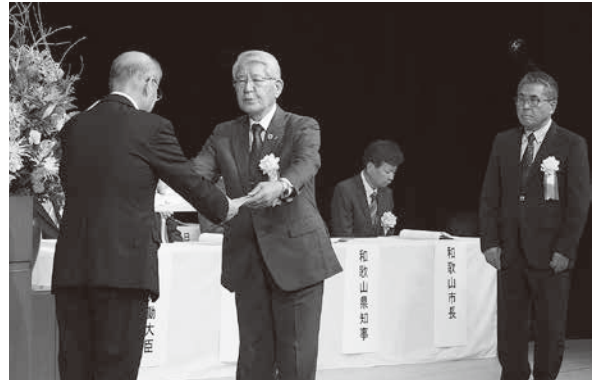
個人功労賞代表の渡邊清之氏



個人功績賞代表の花岡裕一氏



受賞者代表として謝辞を述べるマルカ林業株式会社の海瀬隆太郎氏（事業場賞進歩賞）



感謝状の授与

すようお願い申し上げますとともに、ここに私ども受賞者の決意の一端を申し述べ、御礼の言葉とさせていただきます」と謝辞が述べられた。

その後、長年にわたり労働災害防止活動に努力し、協会業務の運営と活動の推進に尽力された2名の方々に感謝状が贈られた。

大会宣言では、安全行動を最重点とする誓いを宣言し、会場の盛大な拍手をもって採択された。

14時30分からは特別講演として「潜在脳力を高め 目指せゼロ災害～見えてるつもりに潜む危険～」と題して、株式会社脳レボ代表取締役の川谷潤太氏より講演をいただいた。

大会宣言

わが国の林材業における労働災害は、会員事業場と林材業関係者のたゆまぬ努力により、減少傾向にあるものの、いまだ、年間2千2百余名の労働者が被災し、その中で30を超える尊^{いのち}い生命を失っている。

労働災害を「ゼロ」にするには、経営トップと働く一人ひとりが強い意志をもって、安全衛生活動に積極的に取り組むことが最も重要である。

わが国の貴重な財産である森林から得る恩恵に皆が感謝し、健康で安全な作業を続けることを確認し合う機会とするため、第60回全国林材業労働災害防止大会を開催した。

本日、私たちは、「林業・木材製造業労働災害防止計画」の取り組むべき事項を再確認し、全ての活動においてその実現に向け積極的に取り組むとともに、改めて、林材業で働く人々の安全と健康が最優先との原点に立ち、本年の労働災害ゼロの合言葉『リスク知り リスクに備え 安全作業』を掲げ、以下に述べる安全行動を最重点とする誓いを、今、ここ和歌山で表明する。

- 1 「林業・木材製造業労働災害防止規程」に定められた安全衛生教育の実施並びに安全な作業手順と正しい作業方法を守る
- 2 林材業リスクアセスメントの普及・定着にすべての事業場で取り組む
- 3 林材業労働災害防止計画の究極的な目標である労働災害ゼロをすべての事業場で目指す

以上のとおり、宣言する。

令和6年10月24日

第60回全国林材業労働災害防止大会

大会式辞

林業・木材製造業労働災害防止協会
会長 中崎 和久



本日、ここに、第60回全国林材業労働災害防止大会を開催するに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、ご多忙の中、厚生労働省安全衛生部長 井内様、林野庁林政部長 清水様、和歌山県農林水産部長 立石様、和歌山市副市長 犬塚様をはじめ、関係団体、業界団体のご来賓の皆様にご参列いただきました。心から感謝申し上げます。

また、本日は、大変多くの全国の林材業関係者の皆様のご参加のもと、第60回を迎える本大会が、このように盛大に開催されますことは大変喜ばしく、皆様に心から御礼を申し上げたいと思います。

さらに、本大会の開催にあたりまして、多大なるご支援、ご協力を賜りました和歌山県、和歌山市、関係者の皆様、さらに、榎本支部長をはじめ、和歌山県支部の皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。

本大会では、林材業の労働災害の防止に多大なるご貢献、ご功績を上げられました事業場、個人の皆様への表彰を行うこととしております。受賞されます皆様方には、長年にわたるご努力、ご精進に対し、深く敬意と感謝を表しますとともに、今後の益々のご活躍を祈念申し上げます。

当協会は、設立以来、皆様のご協力とご支援のもと、労働災害の撲滅を目指し、さまざまな労働災害防止対策事業に取り組んでまいりました。

関係各位のたゆまぬご努力の成果により、林材業における労働災害発生件数は長期的に減少を続けています。しかしながら、残念なことに未だに悲惨な死亡災害は後を絶ちません。

昨年、林業では、死亡災害の約6割を伐木造

材作業が占め、このうち約8割がチェーンソー作業において発生しています。

また、木材製造業では、死亡災害の約6割が荷役運搬作業と非定常作業で発生しており、林業、木材製造業ともに長くこの傾向が続いています。

このような労働災害発生状況の現状も踏まえ、当協会では、昨年、林材業労働災害防止計画（5カ年計画）を新たに策定いたしました。

計画では、「4つの措置」によるアウトプット指標と合わせ、2027年までに林業・木材製造業において、死亡災害を15パーセント以上減少すること、死傷災害を5パーセント以上減少すること、木材製造業の機械による「はさまれ・巻き込まれ」災害を5パーセント以上減少することというアウトカム指標を定めました。

これらの目標を達成するため、災防規程の周知と遵守徹底、リスクアセスメントの普及と実施の推進、安全衛生教育の確実な実施、林業の伐木等における死亡労働災害の撲滅、木材製造業における再発防止の取組などの重点対策を軸とした具体的な対策を、協会をあげて強力に進めているところです。

労働災害を防ぐためには、日々の労働災害防止のための活動が、大変重要であります。

本日ご参集の事業主の方々におかれましては、事業場における組織的かつ継続的な安全衛生管理体制を整備していただき、また、安全な作業方法と正しい作業手順が行われているかどうか自ら率先して安全パトロールで確認していただくなど、強いリーダーシップをもって労働災害防止に取り組む姿勢をお示しいただくことが重要だと考えています。働く方々と一丸となって安全衛生活動を着実に実行していただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

結びに、本日ご参集の皆様とともに、希望ある林材業の未来に向け、この和歌山におきまして労働災害撲滅への決意を誓い合い、皆様にとって有意義な大会となることを心から祈念しまして、大会の式辞といたします。



特別講演を行った川谷潤太氏



活動等報告を行った井裕啓次氏

現在、メンタルプロデューサーとしてプロアスリートへの指導や学校、スポーツチームなどの教育団体への講演やセミナー等で活躍している川谷氏。「はじめから人はミスや事故を起こそうとは思っていない。しかし人はミスや事故を起こす。それを根本的に解決することができないものか」という課題に対して、「潜在“脳”力を高めれば、ミスは減り、事故も減り、失敗やエラーも減る」という答えが、頭の体操やクイズなどを交えながら楽しく理解できる分かりやすい講演となった。

次に活動等紹介として「進化する架線集材システム」と題して、株式会社井裕林産代表取締役の井裕啓次氏による講演が行われた。同社がある和歌山県田辺市周辺の林業地では急傾斜地が多く、架線による集材作業は不可欠の技術だが、作業中の事故が多く、集材機運転の難しさと荷掛作業時の重大事故の多発が長年の課題だった。そこで同氏は機械メーカーと連携して独自の油圧集材機と架線式自動グラップルの開発を行い、集材作業での危険性がゼロになり、集材から造材までの作業の一連化と省力化を実現した。将来的には集材・造材・搬出の自動化システムの開発までを行いたいとの報告となった。

続いて「最近の労働安全衛生の動向について」と題して和歌山労働局労働基準部長の佐々木崇氏より講演



和歌山県の労働安全衛生動向について講演する佐々木崇氏

をいただいた。

そしてプログラムの最後に、次期開催県挨拶として、来年度の全国大会開催地の山形県支部小関勝助氏より「来年度は山形にて開催させていただきます。安全・安心の大会が無事開催できるよう全力で取り組み、関係者のみなさまのお越しをお待ち申し上げますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます」と次期開催への決意表明があった。

菅野康則副会長の閉会の言葉をもって、第60回全国林材業労働災害防止大会は盛会のうちに終了した。



次回大会への参加を呼びかける山形県支部小関勝助支部長



閉会宣言を行う菅野康則副会長